

ゆずの風新聞

令和2年
夏号

発行：馬路村
農業協同組合



農協HP
はこちら

馬路村の川魚鑑



ハエ
(オイカワ)

イダ

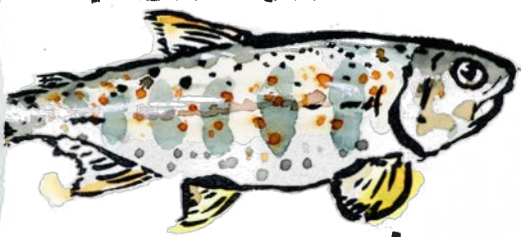
旬：4月～8月

ウナギ

旬：6月～9月

鮎

旬：6月～8月



アメゴ(アマゴ)

旬：3月～8月



ハゼ



ズガニ(モクズガニ)

旬：10月～12月

馬路村を流れる清流安田川には沢山の生き物が住んでいます。代表的な魚は鮎やアメゴ(アマゴ)やウナギ。その他にもズガニ(モクズガニ)、ハエ(オイカワ)、イダ(ウグイ)モツゴチチフハゼなどが生活しています。6月から8月が旬な魚は何と言っても鮎とアメゴ。安田川の上質な苔が、おいしい鮎を育てます。鮎とアメゴは塩焼きで有名ですが、ズガニ汁やチチフとハゼは大ききにもよりますが唐揚げが美味しいです。都会ではこういった生き物が少なくなっているそう。で、馬路でも恵まれた自然に慢心せず、沢山の生き物を守っていききたいと思います。

雨の日の村

晴天雨読

村民は晴れの日はゆず畑に行き雨の日は・・・何をしているのだろう。買い物したり、テレビを見たりだ。うかうかと想像する。実際に聞いてみると、山菜の皮を剥き塩漬けにしたり保存食を作っていたり、他にはゆず畑で使う道具の整理、草刈り機の手入れ、ウナギの畠の整理などをしてるそう。村民は雨の日でも大忙し。

ちよとやて、みまじょうか。

で、始まった川の復活劇。昔はどこでも飛び込めた淵が、今では山が荒れ土砂が流れ込み、飛び込み淵も少なくなってきました。そんな中、コンクリートを使わず川を再生する外科医が高知におるとの情報で今は亡き「川の外科医 副留先生」にお願いして、淵を再生し子ども達の夢を紡ぎました。通称「エヤノマキの淵」は毎年夏がくると、子どもたちが度胸試しに飛び込みます。そろそろ川魚との格闘劇が幕をあげる安田川。

すみちゃんのバリンガルコーナー

86歳

村特有のバリンガル用語がたくさんあります。あなたはわかるかな？

Q あいがり ひんがり
例) 日曜日の事。隣のよつちゃん畑で採れた野菜を持って来てくれました。その30分後、今度は隣の隣のたかさんが、大好きな日本酒を持って来てくれました。そこで一言「まあ、今日はいいがり、ひんがり、人が来るねえ」。

※答えは裏面に

小さな村の発電所

朝日出のずっと奥、ガタゴト道を車で5分、徒歩で10分。右は断崖絶壁の左は落石注意の細い道、なんでも昔この道をトロッコ列車が走っていたんだとか。そこに朝晩ショウジ君が通っているらしい。何をしているんだらう?。聞くとこの先にある小水力発電所の管理をしているそう。平成24年当時、全国的に再生可能エネルギーの利用が高まり、小水力発電なら降水量が日本でも指折りの馬路村の特性を活かす事ができるとして事業を進めていくことになった。小水力発電所が完成したのは平成28年、今年で約4年稼働しているそう。もし何かあっても、ちよとは自分らあで頑張れる、かも。



村のわき水 No.1

水資源の豊富な馬路村には各所にわき水が湧いており、どんなに日照りが続いても枯れることはありません。村内で一番と評判の「朝日出の湧き水」。そばにはわさびが自生する清水です。村のおばちゃんやおんちゃんがペットボトルを持参し、この湧き水を汲みに訪れます。「この湧き水で入れたコーヒーがうまいがよ。ご飯を炊くにもいい。」天然水100%の山の湧き水がただで汲み放題。馬路村に来たときにはちよと寄ってみてもいいかもしれません。

夏のババ

ゆずとはちみつと水だっけ。美味しさの秘訣はゆずと愛情。ふるさとを想う時、自然が足りない時、よく振って、一気にぐんぐんと飲んで下さい。馬路村が休むように広がります。



ぐんぐん



山に大漁旗？



ゆずの夏

ゆず畑の夏ってどんなで？

初夏に白い花が一面を染め、そこから夏模様へと徐々に変わっていつておるゆず畑。秋の収穫に向けた準備に、おんちゃんたちが汗をかきながら取り組んでいます。

【草刈り】

夏の汗かき作業ナンバーワン、ではないでしょうか。ジリジリと照り付ける日差しのもと、厚めの服を着こみ、草刈り機でブーンと畑の中をいったりきたり。馬路村はゆず畑における除草剤の使用を認めておりませんので、次々と生えてくる雑草たちを手作業で刈っていくしかありません。畑と真剣に向き合い汗にまみれるおんちゃんたちの顔は、かっこよくありますが、おんちゃんたちの頭の中は、もうね、晩酌のことでイッパイです。

【青玉】

ゆずの花が落ちると、ぷつぷつとかわいい青い玉が目見えます。これから夏の日差しと村の雨を浴びてすくすくと大きくなることでしょう。おんちゃんたちは「これを見た、世話をしやらないかん気持ちになるね」と我が子のように愛でながら、畑の様子を見回ります。

【花を摘む】

初夏のゆず畑。白い花が畑一面を染め濃厚な香りが漂っています。このきれいな白色と心地よい香りを届けたいと始まったのが、題して「ゆずの花プロジェクト」。ゆずの花が咲くのは1年の中でも初夏のわずかに2週間ほどの間。開いた花をひとつひとつ手で摘み、その花から香りの抽出に成功。まずは、umai more化粧品のラインナップにゆずの花化粧品を加えることとなりました。プロジェクトははじまったばかり、これからご期待ください。

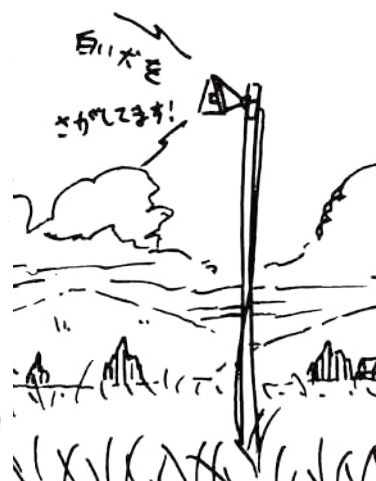


村の有線放送

村の各家庭には有線放送を流す機械が取り付けられており、内容は主に役場や農協からのお知らせや、村議会の中継などです。

ときたま、「白い犬を探しています」や、「柿の木が道路に倒れましてご迷惑をおかけいたします」など、一村民からの放送もあり、村の生活では聞き逃すことはできない重要な放送です。もし放送を聞き逃した場合「今日の放送何やった？」と隣の家に聞きにいきます。

朝6時半から流れるこの村内放送は、村の暮らしには欠かせないものになっています。



沢村先生 Q&A

Q、ゆずはなぜ酸っぱいんですか？

A、酸っぱい理由はクエン酸という酸の成分にあります。クエン酸の量（酸度）と糖の量（糖度）のバランス（酸糖比）で酸っぱさや甘さの程度を表すことができます。例えば温州みかんの酸糖比を1とすると、ゆずは23以上有り、とても酸っぱいことがわかります。ゆずは酸っぱい柑橘類（レモン、すだち、かぼす、だいだいなど）の中でも、もっとも酸糖比の高い柑橘類です。これがゆずの大きな特徴の一つです。



高知大学名誉教授 沢村 正義 教授

掃除だヨ！ 全員集合

皆さんは集まって大掃除をすることはありますか？馬路村はこの時期が来ると、村のあちこちから元気な声と草刈機音が響いてきます。この日は村の一斉清掃の日。地区ごとに住民が集まり、朝の早い時間から草刈りや、溝浚いに動きます。台風でも来ない限り雨天決行の恒例行事。子供から年寄りまで総出で村の大掃除です。梅雨に入ってからぐんぐん成長した草を取り除くのはひと苦労。男衆が草刈機を手に奮闘します。その傍ら、子供たちが笑い声をあげながら駆け抜けていきます。大人には厄介な雑草も虫も、子供にかかれれば楽しい遊び相手。地域の交流の中で自由に遊ぶ子供の姿にほっこりします。

地区の人が一斉に集まるこの日は、日曜日とは思えない活気に満ちて、大切な交流の場になっています。

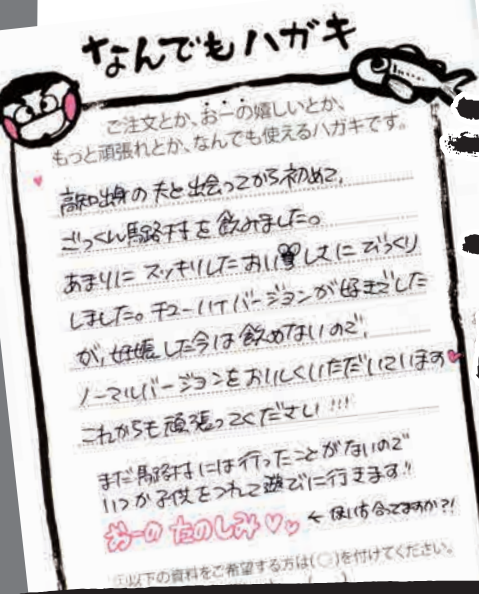
馬路温泉

つるつるのお湯でゆったり。食事、宿泊もできます。



馬路村温泉 HP

おたより コーナー



高知市から室戸方面に約51km 国道55号線を太平洋沿いに進むと安田町へ入る。そして左に大きい魚が見えてきたら左へ曲り、安田川に沿ってくわくわく上る。県道12号線を通る事、20km。約30分。ようやく馬路村に着きます。



すみちゃんの 86歳 バイリンガル コーナー

「あいがりひんがり」 = 「交互に」

よく使う例としては「今日は、あいがりひんがりよう人が来るねえ」という風に使います。

森を元気にする会社 エコアス馬路村

エコアスの 木のかばん

<http://www.ecoasu.co.jp/>

編集後記

記事作りで村を散歩することが多くなってきた今日この頃。夏と言えば川遊び。取材のついでに川の様子を見て回っています。どこで泳ぐか目星を付け、来る夏を今か今かと待っています。